

令和4年度 事業報告

1 事業期間

令和4年4月1日から令和5年3月31日

2 事業の概要

昨年（令和4年）2月に国際法を一方的に蹂躪したロシアの蛮行は、未だウクライナへの軍事侵略を継続しており、対するウクライナも国民の強い支持とNATO、G7などの支援を糧に、軍備の拡張を無制限に続け徹底抗戦の構えを貫いています。

また、台湾への武力解放を画策する中国の動向は、台湾海峡をめぐり米中の軍事衝突が予兆され、世界平和に大きな不安をもたらし、これに伴う捻じれた貿易環境が、世界経済動向に暗い影を落としております。我が国は資源小国であることから、輸入に頼る燃料・食料等の比率が高いなかで、物価の高騰が異常なものとなり、我が国の経済にも悪影響が憂慮されています。

このような状況の中で、シルバー人材センターを取り巻く環境は非常に厳しいものがあり、なかでも令和5年10月から導入される『インボイス制度』は、センター運営に及ぼす影響が致命的な死活問題であると位置づけ、インボイス制度適用から除外するために、春日部市議会との全面的なご賛同をいただき、制度適用撤廃の意見書を『衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、財務大臣、厚生労働大臣、農林水産大臣』に提出するとともに、埼玉県議会のご協力を得て、埼玉県議会からも意見書を提出していただきました。

また、会員の皆様には、会員報「ゆうゆうだより」等を通じ、インボイス制度の実体説明を徹底し、インボイス適用廃止の正当性の醸成を図りました。

こうした運動の成果は、国のシルバー人材センターに対応するインボイス制度改正の動きに再検討の気運が出始め、その実現に期待しているところであります。

最後にコロナ禍から、緩やかに回復の兆しが見えてきた経済状況でありましたが、当センターの就業に対する契約金額は、対前年度15,250,000円（102.3%）の増額となり約4,000,000円の利益となる決算でありましたことを、ご報告いたします。

3 基本計画

- (1) 運営基盤の強化
- (2) 会員増強
- (3) 就業率の向上
- (4) 安全就業への取り組み
- (5) 研修会・講習会の開催
- (6) 社会貢献の推進と普及啓発活動
- (7) シルバー学校の継続

4 基本計画に対する取り組み

- (1) 運営基盤の強化
 - ① 新型コロナウイルスの感染対策として、事務所内および2階洋室、和室にオゾン除菌消臭器を設置するとともに、こまめな換気を心掛けました。
また、新型コロナウイルスの陽性となった会員には、保健所の指導を厳守することを奨め、抗原検査キットを支給し、待機期間の経過後も安心して就業を再開できるよう努めました。

- ② 事業運営の根幹となる「事業部会、研修部会、会員拡大部会、広報部会、安全推進委員会」は、個々の活動に注力するとともに、シルバー人材センターの更なる発展を目指し連携を図り、事業運営に取り組みました。
- ③ 「インボイス制度（適格請求書等保存方式）」に対し、シルバー人材センターを適用除外とするための請願書を春日部市議会へ提出し、国へ意見書をあげていただきました。
- ④ 『センター車両使用管理規程』を一新しました。
センター車両を使用するには、事務局職員および会員は、名簿を作成のうえ理事長からの委任状が必要となり、毎回、運転前後の健康状態およびアルコール摂取の確認を目視と検知器を活用し管理台帳に記載することとしました。
また、75歳以上のセンター車両使用者は、安全推進委員会の指導のもと、「運転記録証明書」の提出、「筆記試験」「体力試験」「運転適性検査」「面談」を行うこととしました。

（２）会員増強

- ① 入会説明会では、新型コロナウイルス感染防止に十分配慮し、シルバー人材センターの魅力について、パワーポイントを活用して紹介しました。
- ② 自治会の定例会議等に参加し、シルバー人材センターの魅力を説明し、チラシ回覧やポスター掲示等に協力をお願いしました。
- ③ 市役所ロビー、ハローワークで入会相談会のスペースを借用し、事業部会が作成した「除草編」「襖・障子・網戸張り編」のDVDを活用し、仕事をわかりやすく説明しました。
- ④ 入会説明会を毎月開催するとともに、女性限定の説明会を３回開催したことで、多くの方に入会説明会へ参加いただきました。
令和４年度は、新たに１７９名が会員となり、令和３年度を２１名上回る入会実績となりました。

（３）就業率の向上

- ① 見える化事業で作成したDVDは、様々な会場で活用したことで、仕事の内容を明確に伝えることが可能となり、就業紹介と就業率の向上に努めました。
- ② トータルサポート班は、新たに「刃物研ぎ」と「営繕」の対応班を立ち上げ、就業会員の補強を行いました。
- ③ お客様に適正な就業形態を推進し、業務の継続に努めました。

（４）安全就業への取り組み

- ① 『危険 予知 トレーニング（KYT）』を推進するため、就業時に事故が多発する現場を安全推進委員と実際に就業する会員で現場を巡回し危険個所を確認するとともに、航空写真を活用して死角となる箇所を分析しながら、協議を重ねKYTマップ（就業現場の図面）を作成しました。
- ② 学校美化業務の主要業務に草刈り作業があるため、小中学校３１校を訪問し就業会員と安全推進委員で、草刈り時におけるカルマー使用の必要性や安全就業に対する認識を高め「事故ゼロ」を目指す推進に努めました。
- ③ 毎月２０日を「安心・安全の日」として多くの現場を巡回し、就業会員と意見交換を行い、現場に潜む危険個所や、就業の段取りなどの調査分析を行い、指導に努めました。

（５）研修会・講習会の開催

- ① 研修部会が主体となり取り組んだ「フレイルレベル判定講習」は、総合企画部会をはじめ４部会・１委員会、運搬班、植木班、除草班、襖・障子・網戸張り班、公園清掃班

- が参加し自身の体力状況や健康寿命などへの認識が高められ大きな反響を得ました。
- ② 就業時研修は、安全推進委員会と連携を取り、働くことを通じて人の繋がり・地域への社会貢献・安全と健康寿命への意識向上を図りました。
 - ③ 新会員研修は‘シルバー人材センターの会員’として、「自主・自立」「共働・共助」の理念や心構えを理解していただくため、過去の事例や会員との意見交換を参考に研修内容の充実を図りました。

(6) 社会貢献の推進と普及啓発活動

- ① シルバー人材センターホームページのリニューアルを実施し、閲覧者へ関心を持っていただくため、たくさんの写真とイベント情報の発信に努めました。
また、会員の皆さまには、就業案内の情報管理を改善し、見やすさと最新の情報提供を実施しました。
- ② 会員報「ゆうゆうだより」では、インボイス制度への取り組みや、会員同士のコミュニケーションを深めることを目的に、年4回発行いたしました。
- ③ 就業会員の連帯感と責任感の意識向上を図るため、センター名入りのベストを作成し、就業時の作業着として着用を始めました。
また、多くのイベントで、役員、事務局もセンター名入りのベストを着用することで、市民の皆様へセンターのPRを図りました。
- ④ シルバー人材センター共通の、マスコットキャラクター「チエブクロー」を、センター広報紙、センターホームページ、新聞広告など様々な媒体で使用し、市民の皆様への認知度を高めました。
- ⑤ 多くの事業が、新型コロナウイルスの感染拡大を考慮し、中止となりました。
令和5年度は、新型コロナウイルスの感染状況に十分注意して、地域との繋がりや現役世代への下支えを目標に、社会貢献と普及啓発活動に努めてまいります。

(7) シルバー学校の継続

- ① シルバー学校は、多くの希望者が集まり、公開抽選会を実施し受講生を選出しました。
また、シルバー学校を通じて会員となり、就業を開始された方も見受けられ、会員拡大と就業率の向上が図れた事業となりました。

【植木学校】

募集人数：25名
申込人数：64名
受講人数：28名（一般の方26名/会員2名）

【襖 障子 網戸張り学校】

募集人数：12名
申込人数：50名
受講人数：12名（一般の方12名）